

## 木木クイズ④

11月に入り、校庭(こうてい)の木の中には秋らしく「ころもがえ」をしている木が多く見られるようになりました。

今回は、その中からころもがえの途中(とちゅう)木のひとつをしょうかいします。

体育館(たいいくかん)への通路(つうろ)の右がわ、カツラの木(わたがしの木?)のとなりにカエデのなかまのトウカエデ(漢字でかくと「唐楓」)の木があります。今、ちょうど葉っぱが赤、黄、緑の3色になっていてカラフルです。

木の下を見ると下の写真のような真っ赤な葉っぱが落ちています。アヒルの足のような形で、葉っぱの先が3つに分かれています。

そばを通ったら、見つけてみましょう。



実(じつ)は、前にしょうかいしたイロハモミジもカエデのなかまです。

イロハモミジの場合(ばあい)は葉っぱの先が5つに分かれていますね。



それでは、問題です。

どうして「カエデ」という名前(なまえ)がついたのでしょうか。

つぎの①～③からえらんでね。

- ①「かえで」さんという人が発見したから。
- ②葉っぱがカエルの手ににているから。
- ③小枝(こえだ)がなまってカエデになった。

正解(せいかい)は……………。

②の「葉っぱがカエルの手ににているから。」です。

「かえるで(手)」が「カエデ」になったそうです。そういえば、どことなくカエルの手(足?)ににているかな。

